



連盟競技史上最多の 5 人によるプレーオフ制し

荒川英二 (福岡雷山) が 2 連覇を達成



2 連覇を達成し喜びの V サインの荒川英二

そのプレーオフは昨年の第 1 回に続く 2 年連続で、1 ホール目の 1 番 (494 ヤ、パー 5) で、2 オンに成功した荒川がピン下 14m から 2 パットでバーディーとし、パー、ボギーの 4 人を下した。宮崎もピン上 13m に 2 オンさせていたが、下りラインから 3 パットし、次ホールに持ち込めなかった。

1 打差、74 の 6 位タイに岩下政稔 (リージェント宮崎、35 歳)、伊東貴幸 (宮崎座論梅、36 歳)、大塚覚 (鹿児島国際、47 歳) の 3 人が入り、さらに 1 打差、75 には高木博喜 (大分東急、57 歳) ら 9 人が入った。

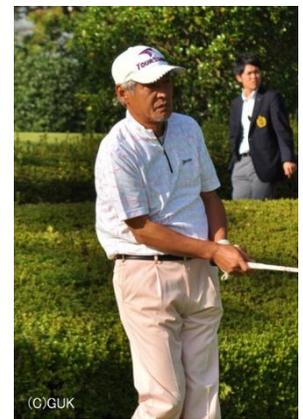
今大会は初日の雨による中止で 1 日だけの “短期決戦、

競技は 18 日、前日の降雨ノーゲームを受けて全員による 18 ホールストロークプレーの 1 日競技に短縮して決勝が行われたが、1 オーバー、73 で並んだ 5 人によるプレーオフを制した 41 歳の荒川英二 (福岡雷山) が大会 2 連覇を達成した。

大会には 121 人 (欠場 10 人) が参加。前日の雨でグリーンが止まりやすくなった半面、この日は午後になると風も強くなり、選手はスコアメイクに苦戦した。(気温 20.7 度、北北西の風 5m = 正午現在)

“短期決戦、で接戦模様”

そんな中で、インのトップスタートの宮崎伸介 (玉名、39 歳)、同組の田尻美智明 (ミッションバレー、55 歳) が 1 オーバー、73 でホールアウト。主力組が後半に入るところからは風も相当強くなってこれを上回るスコアを出す選手が出ず、結局は荒川、吉山朋幸 (沖縄国際、36 歳)、岡村貴志 (久住高原、36 歳) を加えた 5 人によるプレーオフにもつれ込んだ。プレーオフに 5 人が出場するのは連盟主催競技史上最多。



惜しくも 2 位タイの吉山朋幸(左)と

田尻美智明(右)

になり、予測のつかない展開になったが、結局は今季、日本アマチュア選手権で決勝マッチプレーに進出した荒川の実力と経験が勝った格好だった。

12人が日本Mアマ選手権の出場権獲得

この試合の結果、6位タイまでの8人と、9位タイになった9人のうちマッチングスコアカード方式で選ばれた4人の計12人が第17回日本ミッドアマチュア選手権競技（11月14～16日、兵庫県・鳴尾GC）の出場資格を得た。また、上位5人は来年の九州オープン選手権にシードされ、優勝した荒川は来年の九州アマチュア選手権決勝大会にシードされた。



「少し、余裕があったかな」と荒川英二 冷静な判断でつかんだV2の栄冠

正直、5人によるプレーオフは何ホールで決着がつくのか、予測がつかなかった。ところが、何らもつれることなく、1ホール目でケリがついてしまった。

スタート前、硬い表情に見られた他の4人に対し、ニコニコしていた荒川。それがポーカフェイスだったとしても、振り返ってみれば前年もプレーオフを制してのV。そして、今季はジュニアや大学生が主力の日本アマでもその存在を見せていた。結局はキャリアが、勝利を呼び込んだとも言えよう。

プレーオフの1番ホール。全員がフェアウエーに置けず、第2打は左右のラフからのショット。そのなかで、荒川と宮崎がグリーンをとらえたが、荒川は冷静に判断した。「風はフォローだし、直接狙えば（グリーンを）オーバーする。花道狙いで行ったのが正解だった」という。ピン下14mにつけたのだ。

宮崎も2オンに成功したが、13mの下りが残った。大きくスライスして切れた宮崎のファーストパット。そして、肝心のところでミスが出た。残り1.5mを「完全なミスパット。芯を外してしまった」と嘆く3パットでパー。

それを見た荒川は「思い切りいっだけ」と1mを沈めてのガッツポーズだった。

風が強いし、パープレーを目指した本戦のラウンドだった。しかし、17番までは2オーバーのペース。最後の18番で上り3mのバーディーパットを沈めて滑り込みでのプレーオフ参加だった。

そんな荒川だったが、目標を達成できてさすがにホッとした表情も見せ、「もちろん、（V2を）狙っていたが、取れて本当にうれしい」。自分の名前だけが刻まれている優勝カップを手にし、Vサインをしてくれた。

さて、日本選手権。「去年は9位タイに終わった。今年は、この流れでジャパンでも暴れてきたい」と力強く語ってくれた。2007年の牛島中（ミッションバレー）以来、2人目の九州出身チャンピオンが出るか、朗報を待ちたい。（Kiku）



ウイニングパットを沈めガッツポーズを見せる荒川英二



○…初出場でプレーオフ参加の2位タイ・岡村貴志 地元（大分）での大会だし、ジャパンの出場権も欲しかった。ボギーも多かったけど、目標としていた5バーディーもクリアした。攻めた結果だと思う。

○…風にも我慢できたが、2位タイに終わった宮崎伸介 今日はショット、パットとも良かった。後半は風にも我慢できた。同伴競技者にも恵まれ、うまくかみ合ったゴルフができたと思う。プレーオフはミスで自滅してしまった。ジャパンで頑張りたい。



○…昨年は初日トップも今年は2オーバーの6位タイの実力者・岩下政稔 今年は昨年の雪辱戦で臨んだが…とにかくパットがラインに打てず、悪すぎた。7番で1mのバーディーパットを外した。優勝を意識しすぎたのかなあ。

○…インタークラブ6連覇の大博多CCのクラブチャンピオン、40歳江口信二は5オーバーで27位タイ 仲間の真鍋高光さんが九州ミッドシニアで優勝したし、刺激を受けて参加した。しかし、グリーンが思ったより重く、自分のゴルフができなかった。最終9番ではOB打ったし、悔いが残ります。



○…前回2位タイの原田貴将（有明、33歳）は9オーバーで57位タイ 昨年のジャパンのあとに変えたアイアンがまだしっくりこず、ぶれた。グリーンも思ったより重かった。去年の雪辱戦と思ってかなり入れ込んできたけど、悔いが残ります。

初日の競技は降雨／ノーゲームに

全員による18ホールストロークプレーに短縮して 18日(木)に実施

組み合わせ、スタート時間は初日と同じ

強い雨の中で第1ラウンドがスタートしたものの、競技続行は不可能と判断され午前10時50分、初日の競技は中止、ノーゲームとなった。選手権は最終日の18日(木)、全員による18ホールストロークプレーで決することになった。

組み合わせ、スタート時間は初日と同じ。

第1ラウンドの競技は午前7時30分、アウト、イン同時にスタートした。しかし、降り続く強い雨に午前9時20分に中断。1時間後にいったんは再開したものの、天候は悪化、回復の見込みもなく、初日の競技は中止となった。



強い雨の中で競技がスタートしたが、中止に

GUK 今季最終戦**精鋭が集い 17日(水)・大分東急GCで開幕**

30歳以上の中堅プレーヤーを対象にした選手権大会。126人が参加(欠場5人)して17~18日の2日間、大分市の大分東急ゴルフクラブ(6818㌦、パー72)で行われる。

第2回となる今大会は、九州・沖縄11県地区での予選に計769人が参加。このなかから120人が予選を通過したほか、本戦には前年の九州、日本ミッドアマ選手権上位者らがシードされて出場する。

昨年の第1回大会(福岡CC)は、通算4オーバー、148で並んだ3人によるプレーオフになったが、荒川英二(福岡雷山)が栄冠を手にした。今大会はその荒川や、プレーオフを戦った原田貴将(有明)、小屋敷幸二(南九州)、前回上位に入

った満潮辰一郎(志摩シーサイド)、扇慶太郎(オーシャンパレス)、合原豊(麻生飯塚)、日高雅司(宮崎国際)らの強豪のほか、今年の九州シニアを制した井上勘昭(西戸崎シーサイド)、同2位の鶴木伸久(ブリヂストン)らのシニア勢がどこまで絡んでくるかが見ものだ。

大会は初日(17日)は予選で、上位80位タイまでが最終日(18日)の決勝ラウンドへ進出する。

今年の第17回日本ミッドアマチュア選手権競技は11月14~16日、兵庫県・鳴尾GCで行われ、九州の出場枠は12人(シード選手含む)。

会場の大分東急ゴルフクラブは1975年(昭和50年)の開場。九六位山(くろくいさん、標高451.7m)のふもとに広がる丘陵コースで、コース設計は著名な井上誠一氏とも交流があった宮澤長平氏の手になる。起伏は少ないが、多くの池が配置され、戦略性を高めている。連盟主催競技はこれまで、九州オープン(2003年)のほか九州ミッド・グランドシニア、九州学生の各選手権が開かれている。

初日の17日は午前7時30分、アウト、イン同時にティーオフ予定。



準備が整った大分東急GC